

被爆地への中学生派遣事業

◆派遣の目的

- ・ 被爆地である広島や長崎で、平和式典に参列したり、原爆関連の資料館や施設を見学したりすることを通じて、戦争や核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを知ること。
- ・ 派遣体験を今後の平和に関する学習の糧にするとともに、この体験を活かして「広島・長崎派遣中学生リレー講座」などに参加することにより、原爆の実相の次世代への継承に貢献してもらうこと。

◆派遣内容

- ・ 広島平和記念式典への参列
- ・ 広島平和記念公園や平和記念資料館、本川小学校等の被爆関連施設の見学
- ・ 広島を訪れている外国人や日本人へのインタビュー など

◆派遣人数

平成 17（2005）年度から平成 24（2012）年度までは 6 名（市立中学校 6 校から各 1 名ずつ）、平成 25（2013）年度からは 12 名（各中学校 2 名ずつ）を派遣しています。

なお、平成 27（2015）年度は、戦後 70 年・我孫子市平和都市宣言 30 年の節目の年にあたるため、24 名（各中学校 4 名ずつ）を派遣しました。

◆団員の活動

- ・ 事前説明会、事前学習会、市長・教育長との懇談会への参加
- ・ 広島平和記念式典への参列
- ・ 派遣感想文の作成
- ・ 我孫子市平和祈念式典への参列、派遣報告
- ・ 「広島・長崎派遣中学生リレー講座」への参加、学校等での派遣体験の伝承
- ・ 「平和の集い」における派遣報告

◆平成 30（2018）年度の派遣事業

平成 30 年度は、12 名（市立中学校 6 校から男女各 1 名ずつ）を広島に派遣しました。また、市の代表として市長・教育長が、引率者として我孫子市平和事業推進市民会議委員 1 名、市職員 3 名が同行しました。さらに 2 名が個人参加しました。

● 中学生派遣団

| 氏名 | ふりがな | 性別 | 学校名 | 学年 |
|--------|-----------|----|--------|----|
| 大橋 結花 | おおはし ゆいか | 女 | 我孫子中学校 | 2 |
| 山森 悠生 | やまもり ゆうき | 男 | | 2 |
| 伊達 龍太郎 | だて りゅうたろう | 男 | 湖北中学校 | 2 |
| 根本 茜梨 | ねもと あかり | 女 | | 2 |
| 内平 菜々美 | うちひら ななみ | 女 | 布佐中学校 | 2 |
| 佐藤 優馬 | さとう ゆうま | 男 | | 2 |
| 奥山 貴之 | おくやま たかゆき | 男 | 湖北台中学校 | 2 |
| 菊池 結音 | きくち ゆの | 女 | | 2 |
| 岡村 朝瑚 | おかむら あさこ | 女 | 久寺家中学校 | 2 |
| 松本 周汰 | まつもと しゅうた | 男 | | 2 |
| 早乙女 凜 | そうとめ りん | 女 | 白山中学校 | 2 |
| 森 琥太郎 | もり こたろう | 男 | | 2 |

● 引率者

| 氏名 | ふりがな | 性別 | 所属 |
|--------|----------|----|-------------------------------|
| 小谷 典子 | こたに のりこ | 女 | 平和事業推進市民会議 (平成 24 年度派遣中学生) |
| 齋藤 絵里香 | さいとう えりか | 女 | 市教育委員会 指導課 |
| 安武 真弓 | やすたけ まゆみ | 女 | 市 企画課 |
| 萩原 誠経 | はぎわら せいじ | 男 | 〃 |

● 個人参加

| 氏名 | ふりがな | 性別 | 所属 |
|--------|----------|----|-----------------------------|
| 的山 ケイ子 | まとやま けいこ | 女 | 平和事業推進市民会議 (我孫子市原爆被爆者の会) |
| 濱原 沙也佳 | はまはら さやか | 女 | 平成 24 年度派遣中学生 |

広島派遣3日間の行程

■1日目〔8月5日(日)〕

7:40

出発式 けやきプラザ前集合



8:04発

我孫子駅～（上野東京ライン品川行き）～東京駅

～13:26着

～（新幹線のぞみ21号）～広島駅



13:30

広島平和記念公園へ移動（路面電車：広島駅～原爆ドーム前）

～14:30



14:30

ボランティアガイドさんの案内で、広島平和記念公園を見学

～16:30



16:30
～18:00

広島平和記念資料館の見学



19:30
～21:00

広島駅近くで、夕食（極旨処 三国団）

21:30
～22:30

宿泊先で、一日の反省と振り返り（ホテルニューヒロデン 1F ラウンジ）



みんな、暑い中、1日おつかれさまうな～！
新しい友達と、広島に落とされた原爆のこと、たくさん学んだうな。
今日の反省と振り返りを活かして、明日もがんばるうな～！



■2日目〔8月6日(月)〕

8:00
~8:45

広島平和記念式典に参列（広島平和記念公園）



9:00
~10:00

我孫子市民から寄せられた千羽鶴と各中学校で作成した千羽鶴を、原爆の子の像に奉納し、平和を祈念



10:00
~11:00

広島平和記念公園を訪れていた方にインタビュー（原爆ドーム周辺）



11:30
~13:00

昼食（みっちゃん総本店 じぞう通り店）



13:30
～15:30

基町高校の学生が描いた原爆の絵の観覧と、被爆体験講話の聴講
(広島国際会議場)



16:00
～17:00

本川小学校平和資料館の見学



17:30
～18:30

夕食 (むさし 土橋店)
とろろ流しに向けて、一人ひとりメッセージを記入



18:30
～20:30

とろう流し（元安川）



21:30
～22:30

宿泊先で、一日の振り返りと反省（ホテルニューヒロデン1Fラウンジ）



みんな、朝早くから夜まで、1日おつかれさまうな～！

暑い一日だったうなね～。

インタビューでは、みんなで協力して、積極的に話しかけていたうなね！

反省会も、団長と副団長を中心に真剣に取り組んでいて、素晴らしかったうなよ！

明日は最終日。力を合わせてがんばろうな！



■3日目〔8月7日(火)〕

9:00
～10:00

袋町小学校平和資料館の見学



10:30
～12:00

広島城を見学、訪れた方にインタビュー



13:35発
～18:31着

広島駅～(新幹線のぞみ30号)～品川駅～(上野東京ライン)
～我孫子駅



19:00頃

我孫子に帰着。出迎えてくださったみなさんに、派遣報告とお礼。

(けやきプラザ1階)



▲ 原爆ドーム前にて

みんな、3日間おつかれさまでしたうな～！

どんな体験が心に残ってるかな？

広島で学んだ原爆の恐ろしさや平和の大切さを、これからも周りの人や後輩たちに伝えていってほしいな！



広島派遣の報告



▲広島平和記念公園にある「原爆の子の像」



▲毎年8月6日に元安川で行われる「とろろう流し」

平成30年12月2日(日)に、けやきプラザふれあいホールにて「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。

派遣中学生たちは、広島で学んだことや感じたことを、スライドを交えながら報告しました。

【報告概要】

- 派遣に向けて
- 第1日目
- 第2日目
- 第3日目
- 私たちの平和宣言



我孫子市では

2005年(平成17年)から
「我孫子市平和事業」として
中学校代表生徒が広島・長崎の式典に参列

2018年(平成30年)12名の
中学生が広島の式典に参列



白山中学校
早乙女 凜 さん

我孫子市では 2005 年から毎年、各中学校の代表が、市の派遣中学生として、広島や長崎の平和式典に参列しています。

14 回目の派遣に、私たち 12 名は広島を訪れ、73 年前に起きた様々なものを見、聞き、肌で感じとってきました。今日は、私たちが広島で体験し感じたこと、考えたことをみなさんにお伝えします。

そして、この発表を通して、みなさんやご家族の間、学校で、平和について考え、語り合う機会ができ、そのことが少しでも平和への道につながるものになればうれしいです。

日にち 7月25日(水) 14時～

場所 教育委員会4階 大会議室

(1) 事前説明会

- 我孫子市平和事業推進市民会議 会長からの挨拶
- 派遣中学生、引率者の自己紹介
- 派遣行程の説明、注意事項
- 団長、副団長の決定

(2) 事前学習会

- 派遣中学生 OB・OG から、後輩のみなさんに伝えたいこと
早坂旭慈さん (H27 広島派遣・高校3年生)
石嶋心愛さん (H28 長崎派遣・高校1年生)
佐口未来さん (同上)
早坂弘宇さん (同上)
- 我孫子市原爆被爆者の会からのお話
副会長 的山ケイ子さん
- 意見交換

(3) 市長、教育長との懇談会

- 市長からの挨拶
- 教育長からの挨拶
- 派遣中学生自己紹介、抱負
- 懇談

事前説明会、事前学習会



布佐中学校 佐藤 優馬 さん (団長)

私たち派遣中学生は、7月25日、事前説明会と、市長・教育長との懇談会のために、教育委員会に集まりました。

まず、広島派遣の目的と活動内容についての説明を受けました。

つづいて、派遣 OB・OG のみなさんが、派遣中学生としての心がまえや、派遣先での注意事項、派遣の時に感じたこと、今リレー講座などで活躍していることを話してくださいました。

さらに、その他の派遣 OB・OG のみなさんから、ビデオでメッセージをもらいました。

広島派遣代表としての実感と責任が湧いてきました。



久寺家中学校
松本 周汰 さん

我孫子市原爆被爆者の会の方から、被爆体験の話をお聴きました。

お話くださった的山さんは、お母さんのお腹の中で被爆しました。的山さんのお母さんは、的山さんの将来を気遣って、的山さんが20歳になるまで、被爆者手帳を申請しなかったそうです。それまでの間、的山さんのお母さんは大変苦労されたそうです。

市長、教育長との懇談会





この日は出席できませんでしたが、派遣団仲間です。3日間がんばります！



湖北台中学校
奥山 貴之 さん

市長と教育長に、一人ずつ抱負を述べました。僕は、「3日間の広島派遣で学んだこと、感じたことを、家族や学校の仲間など身近な人たちだけでなく、できるだけ多くの人たちに伝えたい。」と話しました。

そのあと星野市長から、「何を見てきてほしい、何を感じてほしいとは言いません。皆さんが見て、聞いて、感じたことをもとに、しっかり自分の考えを持ってほしい」というお言葉を頂きました。教育長からは、派遣に対する激励の言葉と私達への期待を込めた言葉をいただきました。

「広島は暑いですから、何かあったら遠慮なく言ってください」という、温かい言葉もいただき、3日間ご一緒して下さるということに、とても安心しました。

第1日目



湖北中学校
根本 茜梨 さん

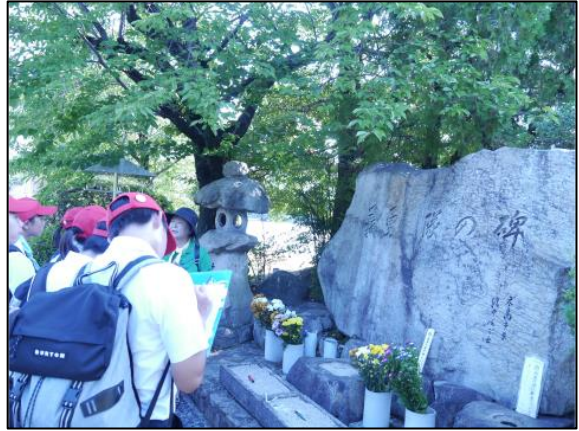
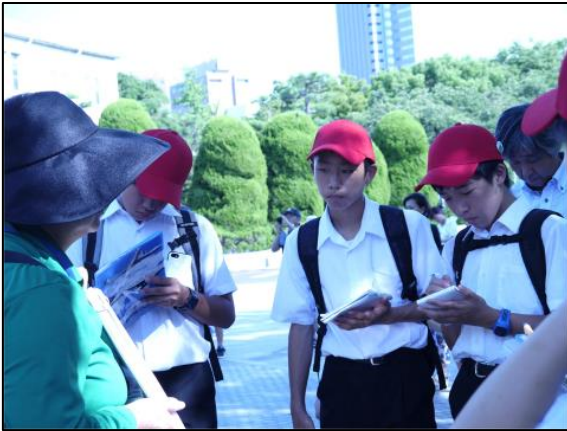
8月5日(日)7時40分に、けやきプラザ前に集合し、出発の会を行いました。見送りに来てくださった多くの方々に、派遣団としての決意をこめて挨拶をし、みんなで思いを一つにして広島に出発しました。

行きの新幹線では、みんな初めてのメンバーで最初は不安もありましたが、インタビューの班で質問の内容を考えるなど、自分から声をかけ合い、すぐに仲良くなることができました。一人ひとり意見を出し合い、各グループ、とても良いインタビューが期待できる話し合いができました。

我孫子市平和事業
広島でのスケジュール

<8月5日(日) 第1日目>

- 1 広島平和記念公園の見学
(ボランティアガイドさんによる説明)
- 2 広島平和記念資料館の見学



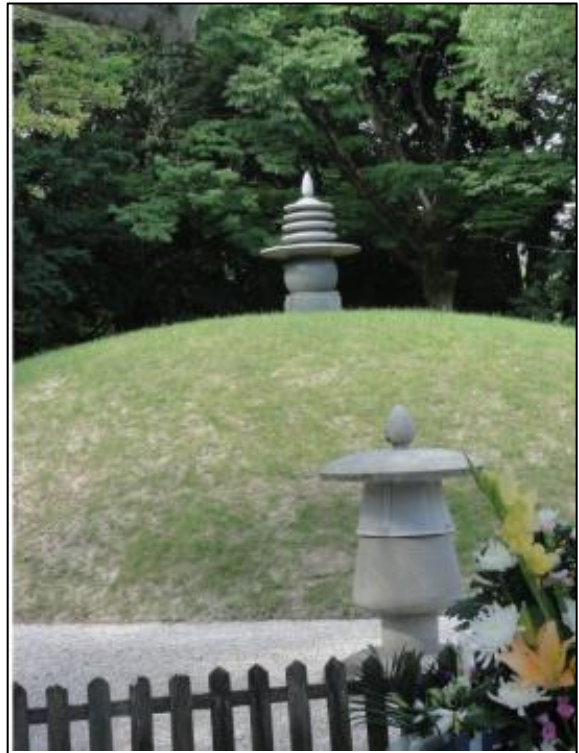
広島に到着後、路面電車で広島平和記念公園に向かいました。ボランティアガイドの方に説明をしていただきながら、公園内を見学しました。

普段では聞けない貴重な話を記憶にとどめようと、メモをとりながら話を聴いていました。

久寺家中学校
岡村 朝瑚 さん



(写真・上) 被爆した墓石



(写真・右) 原爆供養塔

(写真・下) 韓国人原爆犠牲者慰霊碑



久寺家中学校
松本 周汰 さん

「被爆した墓石」は、原爆の爆風で浮き上がり、その間に石片が入ったために、重い墓石の下に石片が挟まれています。こんなに重い墓石が動かされてしまうと考えると、その爆風がどれほどのものかがわかります。そして、それと同時に、この爆風を人間が受けたらどれくらいの被害が出てしまうのだろうかと考えさせられました。

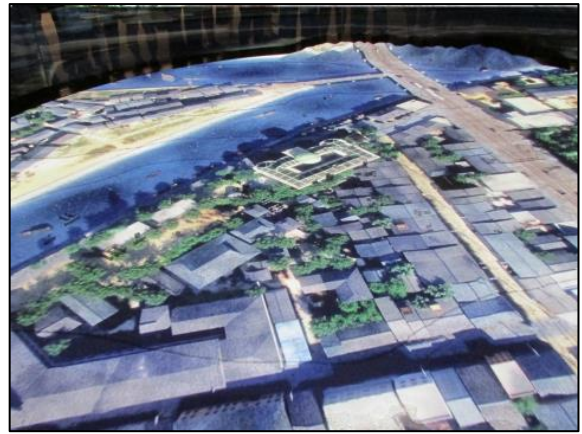
「原爆供養塔」には、当時、広島で燃やされたたくさんの身元不明の人骨が埋葬されています。

「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」は、原爆で亡くなった韓国人のために建てられました。原爆は、日本人だけでなく、広島にいた韓国人や中国人、東南アジアの学生、また捕虜として広島にいたアメリカ兵も含め、一瞬にして多くの命を奪いました。元々は、平和記念公園の外にありましたが、人種差別等の問題で平和記念公園内に移転されたそうです。



(写真・上) 地球平和監視時計

(写真・右) 原爆が投下された瞬間を再現した展示



湖北台中学校
奥山 貴之 さん

次に、広島平和記念資料館を見学しました。

資料館の入口には、「地球平和監視時計」があります。時計の下には、2つの数字が表示されています。1段目は、広島に原爆が投下されてからの日数、2段目は、最後の核実験からの日数です。「原爆が投下された日のことを忘れてはいけない」という思いと、核兵器廃絶への願いが込められています。

中に入ると、原爆が投下された瞬間を再現している展示があります。広島市の地形模型に映像が投影され、原爆がまちに与えた被害の大きさがわかります。

原爆投下後、一瞬で廃墟となった広島の様子を、このジオラマで見た僕は、原爆の恐怖と核兵器廃絶の大切さを感じました。



(写真・左) 中学生の服

県立広島第二中学校 1 年生の朝日俊明さんの遺品です。8 月 6 日朝、先生・生徒 325 人とともに、建物疎開作業の現場で被爆し、ほとんどがその場で即死しました。俊明さんは、川に入ってしばらく時を過ごした後、火の中をぐぐって逃げているところを知人に発見され、可部町の自宅に帰り着きました。

重傷を負いながらも、被災した時の様子や学友のこと、休学手続きのことまで話しましたが、8 月 9 日朝、「お世話になりました」と言い残し、亡くなりました。



(写真・右) 3 歳の男の子が乗っていた三輪車



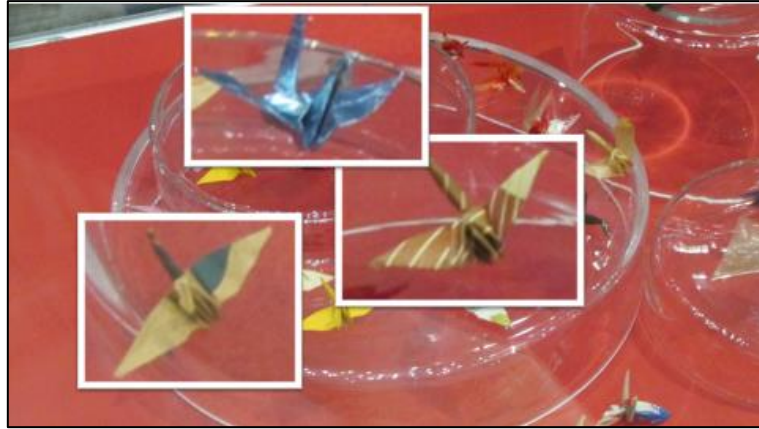
湖北台中学校
奥山 貴之 さん

資料館には、原爆が投下された瞬間の悲惨さと恐ろしさを感じさせる被爆者の遺品も数多く展示されています。

僕たちと同じ年齢で亡くなった中学生の遺品が展示されていました。

3 歳の鍬谷伸一（てつたにしんいち）ちゃんの遺品が展示されていました。自宅前でこの三輪車で遊んでいるときに被爆し、その日の夜亡くなりました。父親は、ひとりで墓に入れるのはかわいそうだと、亡骸を三輪車とともに、裏庭に埋葬しました。40 年後、父親は子どもを墓地に移し、この三輪車を資料館に寄贈しました。

これらを間近で見て、僕は、二度と同じような悲劇を繰り返さないことを、心の中で誓いました。



布佐中学校
内平 菜々美 さん

資料館には、千羽鶴が展示してありました。

佐々木 禎子さんが折った鶴です。禎子さんは、2歳の時に被爆しましたが、その時は無傷でした。ところが、被爆から10年後、12歳の時に、原爆による放射線の影響で、白血病を発症しました。

禎子さんは、千羽の鶴を折ることで病気が治ると信じ、入院中、千羽以上の鶴を折りました。

しかし、その願いは届かず、8か月間の闘病生活の後、12歳の短い生涯を終えました。当時、折り紙は高価で、薬やお菓子の包み紙で折られています。

ちなみに、禎子さんが折った鶴は、平成27年に遺族から我孫子市に寄贈され、アビスタ1階に展示されています。

また、平和記念資料館の東館には、アメリカ元大統領のオバマ大統領が広島を訪問した際に折った折り鶴も、展示されていました。

第2日目

我孫子市平和事業 広島でのスケジュール

<8月6日(月) 第2日目>

- 3 平和記念式典への参列
- 4 原爆の子の像の参拝と千羽鶴奉納
- 5 原爆ドーム見学と来場者にインタビュー
- 6 被爆体験講話
- 7 本川小学校平和資料館の見学
- 8 灯ろう流し



白山中学校
森 琥太郎 さん

日程2日目、8月6日の朝、私たちは、「広島平和記念式典」に参列しました。

平和記念式典には、広島県内だけでなく、全国から、また、海外から多くの人々が参列しています。

原爆が投下された8時15分、平和への祈りと原爆死没者への慰霊を込めて、黙祷を行いました。

次に、広島市長、広島市議会議長、遺族代表、子ども代表、被爆者代表の方々による献花が行われました。

松井広島市長による、核兵器の廃絶と、世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすという平和宣言が行われました。



白山中学校
森 琥太郎 さん

安倍内閣総理大臣があいさつをされ、
続いて、こども代表による「平和への誓い」が
宣言されました。

最後に、「ひろしま平和の歌」を参列者全
員で合唱しました。



我孫子中学校
山森 悠生 さん

式典終了後、私たちは「原爆の子の像」に折り鶴を奉納しました。原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんは、先ほど説明した通り、とても有名です。

三脚のドーム型の台座の頂上に金色の折り鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、左右には明るい未来と希望を象徴する少年少女の像があります。像の下におかれた石碑には、「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和を築くための」という碑文が刻まれています。

私たちが奉納した折鶴は、我孫子市民のみなさんから集まった多くの折鶴です。市内の小中学校で作られた千羽鶴も奉納しました。



湖北中学校
伊達 龍太郎 さん

続いて私たちは、原爆ドームへ向かいました。

この有名な「原爆ドーム」は、もともと「広島県産業奨励館」という名前で、広島県内の物産の展示・即売や美術展覧会場として使われていました。

しかし、爆風の影響により建物が崩壊し、現在のような姿になりました。

戦争の悲惨さを後世に伝え、核兵器廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルとして、「原爆ドーム」と名付けられ残されています。



我孫子中学校
大橋 結花 さん

私たちは原爆ドームの見学だけでなく、日本全国、世界中から訪れている人たちに、戦争や平和についてどのように思っているのか、インタビューをしました。

ここでは、たくさんの地域、世代の方が訪れていました。インタビューをとおして、様々な考えを聴くことができました。「平和のために何ができると思いますか」という質問に、「自分で感じることに、正しい事実を知ること」、「無関心にならないこと」、「核をなくしていくように協力していくこと」などの考えや意見を聴くことができました。



我孫子中学校
大橋 結花 さん

私は外国人の観光客が多いことにとても驚きました。せっかくのチャンスなので、英語でのインタビューも試みました。

英語でのインタビューは難しいものでしたが、身振り、手ぶりなどを交えて、なんとか聞くことができました。外国人の方たちも、原爆に対して、意見や考えを持っていることを知りました。

スペインの方から、「いま現在も世界で起きている戦争を終わらせたい」という気持ちを感じました。

言葉は違っても、平和への願いはたった一つである、と感じました。

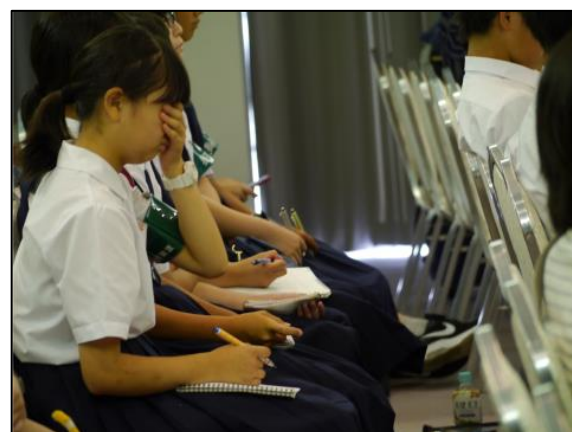


布佐中学校
佐藤 優馬 さん

私たちは「原爆死没者慰霊碑」を参拝しました。この慰霊碑は、ここに眠る犠牲者の霊を雨露から守りたいという気持ちから、埴輪型に設計されたといひます。埴輪の中央に石棺があり、その中に原爆死没者の名を記入した過去帳が納められています。

この碑文の「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という言葉について、広島市は、碑文の趣旨を正確に伝えるため、説明板を設置しました。その説明板には、「碑文はすべての人びとが原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である。過去の悲しみに耐え憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心がここに刻まれている」と記されています。平和記念都市として、この説明板で平和を訴えていることがわかりました。

僕は、ここで「平和が続くように努力をします」と誓いました。参拝する人の中には、外国人も多く、日本の平和だけでなく、世界中の平和が大切だと思いました。



私たちは、被爆者の梶本さんの体験講話を聴きました。梶本さんは、14歳で被爆し、両親も亡くなり、3人の弟たちを育てるために10年間夢中で働いたそうです。被爆者は結婚ができないという噂が流され、差別に苦しんでいたとおっしゃっていました。

そんな講話の中で、私たちは、梶本さんのある言葉が印象に残りました。

それは、「忘れた歴史は繰り返される。だから私たちが伝承者にならないといけない。」というものでした。

この3日間で私たちが感じてきたこと、学んできたことをこれから先、リレー講座などを通して「伝承者」になり、伝えていこうと思います。



湖北台中学校 菊池 結音 さん



我孫子中学校
山森 悠生 さん

本川小学校平和記念資料館を訪れ、ボランティアガイドの方の案内で見学をしました。

本川小学校は爆心地の最も近くで被爆した小学校です。当時としては近代的な鉄筋コンクリートの造りだったため、全壊を逃れることができました。

ですが、実際に見ると予想以上に損傷が激しく、当時の様子を物語っていました。

本川小学校平和資料館には、写真パネル 30 点、被爆資料 30 点が展示されています。

たくさんの展示がありましたが、一つ一つから原爆の恐ろしさが伝わってきました。

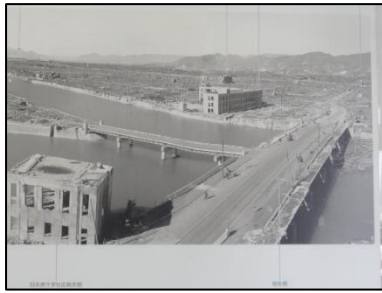


湖北台中学校
菊池 結音 さん

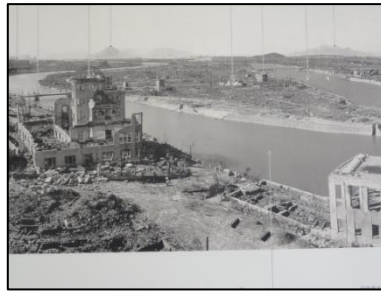
地下室には、被爆する前の広島ジオラマが展示されていました。ここでは、ガイドの方から、「井森清子」さんという、本川小学校で被爆された方のお話を聴きました。

清子さんは、本川小学校で唯一生き残った方だそうです。原爆が投下された8月6日の朝、学校の下駄箱にいるときに被爆しました。原爆による閃光で、気を失い、目が覚めると、そこには赤と黒だけの地獄のような光景が広がっていたそうです。

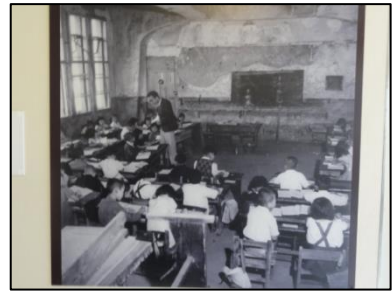
当時清子さんは、「なんで私だけ生き残ってしまったんだろう」と思い、何度も死にたいと考えたそうです。それでも、自分が生き残ったのは、原爆のことを後の世代に伝えるためだと考え、必死に生きた清子さんは、本当に強い人だと思いました。



▲被爆直後の広島風景



▲被爆直後の原爆ドーム周辺



▲被爆後の授業の様子



▲被爆後の授業の様子



▲外から見た校舎



▲運動会の様子



▲運動会の様子



湖北中学校
伊達 龍太郎 さん

被爆直後の広島風景に、形が残っている建物は2つほどしかありません。T字型の橋が相生橋で、その奥に見えるのが、私たちが見学した本川小学校です。

被爆直後の原爆ドーム周辺は、先ほどの写真と同様、ほとんど何も無い、瓦礫しかない状態です。

被爆後の授業の様子を撮影した写真では、机、いす、黒板以外には何も無く、窓ガラスも壊れていることが分かります。

外から見た校舎です。子どもたちは、こんな建物の中で授業を受けていたのです。

運動会の様子です。窓ガラスも吹き飛んだ外郭だけの校舎の前で活動しています。大好きな街、大好きな人を奪われた中でも、子供たちは一生懸命生活していました。



▲ショーケースの中のガラスの塊



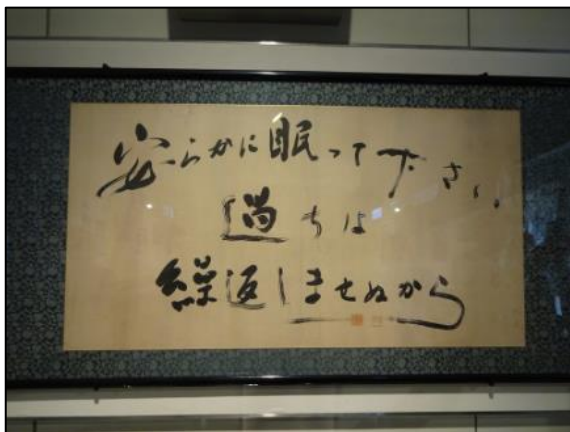
▲とけたガラスのかたまり



▲とけたガラスのかたまり



▲鉄かぶと



ショーケースの中のガラスの塊は、高熱によって変形し、口を閉じられていて、中には 73 年前の液体がそのまま封じ込められています。

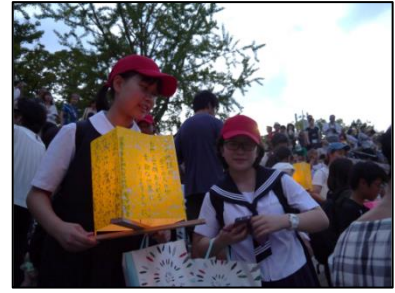
被爆した時に溶けたガラスのかたまりはいくつも展示されています。これだけの高熱で、たくさんのものが原爆によって、壊されたということです。

熱線で溶けた鉄かぶとが展示されていました。鉄でできたものが変形してしまうほど、高い温度だったことがわかります。

平和記念公園内の原爆死没者慰霊碑に刻まれている碑文の原文が展示されていました。「戦争をしてしまった」という過ちを再び繰り返してはいけないという思いが伝わってきました。



湖北中学校 伊達 龍太郎 さん



我孫子中学校
大橋 結花 さん



湖北台中学校 菊池 結音 さん

2日目の最後は、とうろう流しを行いました。

原爆投下から2年後、親族や知人を原爆で失った遺族や市民たちが追善と供養のため、手作りの灯ろうを川に流したのが、「とうろう流し」の始まりと言われています。

灯ろうには、亡くなられた方の名前と流した人の名前を書き込むのが一般的ですが、最近では国内外から来られた方々が、「平和への思い」を書かれる光景も目立つようになりました。

長い歴史を持つ「とうろう流し」は、「慰霊」と「ピースメッセージ」の両方の意味を持つようになったようです。

私たちは事前に、それぞれの思いや平和への願い、将来の夢などを灯ろうに書きました。

灯ろうに込めた願い・夢



「すべての国が、核を持たない」
「医者になって、多くの人々の命を守る！」

布佐中学校 佐藤 優馬



「世界平和」
「航空管制官として、社会に貢献する！！」

湖北中学校 伊達 龍太郎



「いのちを大切に」
「毎日健康に生きる」

久寺家中学校 松本 周汰



「平和」
「家族を持つ」

我孫子中学校 山森 悠生



「世界中の人々の笑顔が増えますように」
「将来、小学校の教師になって、
母校に帰れますように」

白山中学校 早乙女 凜



「この地球の全ての人々が、自然と笑顔あふれる
素敵な世界になりますように」
「たくさん子ども達に、音楽の楽しさを
教えられる人になれますように」

湖北台中学校 菊池 結音



「核0で、命が一番で、永遠の平和」
「検事官になって、“正”と“悪”をはっきり示したい」

湖北台中学校 奥山 貴之



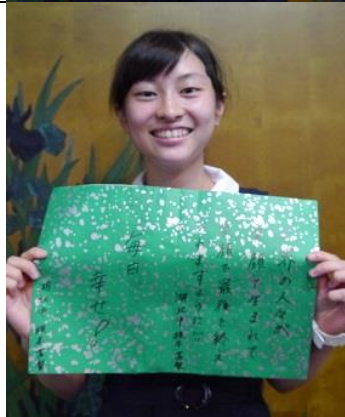
「平和の大切さを未来に繋ぐ」
「教師になって、たくさんの人に
自分が学んだことを伝える」

白山中学校 森 琥太郎



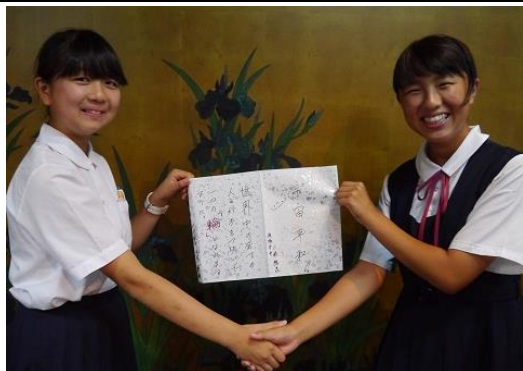
「広島のことを、未来へつなげる伝承者になる！！」
 「友達や家族が 毎日笑顔で過ごせますように！」

布佐中学校 内平 菜々美



「毎日幸せ！」
 「世界の人々が 笑顔で生まれて
 笑顔で最後を終えられますように ^▽^」

湖北中学校 根本 茜梨



「宇宙平和！」
 「笑顔で楽しくすごす！」

我孫子中学校 大橋 結花

「世界中の全ての人々が手をつないで、一つの“輪”となれますように」
 「人を救う仕事に就けますように！！」

久寺家中学校 岡村 朝瑚

みんなの願いや夢が叶いますように〜うな





湖北台中学校
奥山 貴之 さん

1 日の終わりは、団長、副団長を中心にして、毎日、反省会を行いました。

皆、言葉は違っても、話し合いの先には、全員が戦争で起きた悲しみを強く感じ、未来は必ず平和にするという願いは同じでした。

そして、感想や反省だけでなく、見て、聞いて、感じたことを、どうしたら、次の日の活動に生かし、より良いものになるかも考えました。

第3日目

我孫子市平和事業
広島でのスケジュール

<8月7日(火) 第3日目>

9 袋町小学校平和資料館見学

10 広島城見学と来場者へのインタビュー

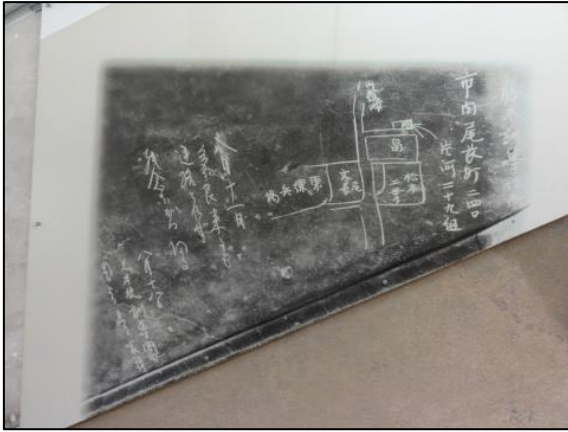


湖北中学校
根本 茜梨 さん

最終日の3日目は、袋町小学校平和記念資料館からスタートしました。袋町小学校は、73年前、爆心地から約460mの地点にあり、実際に被爆しました。

本川小学校と同様、鉄筋コンクリートの造りでしたが、原爆の恐ろしい強さには勝てず、一時外郭を残し廃墟となりました。

しかし、戦後50年間は「西校舎」として復旧し、使われていたそうです。現在は、36点のものが展示されています。



▲伝言が残されている煤けたコンクリート壁



湖北中学校
根本 茜梨 さん

被爆した校舎の壁に残されていた、離れ離れになった親や子を探す伝言です。袋町小学校は、被爆者の避難場所、救護所となっていたので、児童、職員、地域の住民の安否を確認するために、真っ黒に煤（すす）けたコンクリートの壁にチョークを使って、「伝言」を記しています。

家族と再会するのが難しかったことが分かりますが、いったいどのような思いで、この伝言を記していたのでしょうか。



久寺家中学校
岡村 朝瑚 さん

3 日目最後に訪れた広島城。広島城は、原爆ドームから 900m離れた所にあり、原爆によって破壊されました。これほど大きなお城が吹き飛ばされたこと聞き、改めて原爆の破壊力の恐ろしさを、間近で見た私たちは感じました。

ここでは 2 回目のインタビューを、4 つのグループに分かれて行いました。

子どもに原爆を教えるために広島に来たご家族がいらっしゃいました。母親は、中学生の時の修学旅行で来たことがあり、2 回目でしたが、その頃と今回では感じ方が違ったそうです。今の人たちにも大人になってもう一度来てほしいとおっしゃっていました。

やはり広島城にも外国の方が多数訪れていました。アイルランドから訪れた方は、原爆やそれに関する歴史を知るために来たとおっしゃっていました。

このように世界中の人に、実際に広島に来て、事実を知ってほしい、そして、同時に「平和」とは何かを考える人がもっと増えてほしいと思います。

こうして私たちは、3 日間の活動を終え、広島をあとにしました。